

令和5年度 全国学力学習状況調査 <生活状況等分析>

朝来中学校

【生活】

(ア) 朝来中学校における調査結果の概要

朝食をとっている生徒の割合が全国及び県平均より低いが、多くの生徒が基本的な生活習慣を確立し生活することができている。また、地域性もあるが、部活動にほぼ毎日参加している割合も高い。

学習面では、平日の学習時間や読書に取り組む時間に課題が見られるが、学んだことを生かそうとしている姿勢や与えられた学習に前向きに取り組むなど、学習に向かう習慣は確立されている。

学校生活では、互いに支え合い、話し合いを通して個々を成長させていこうとする姿勢が見られ、集団性が育まれている様子が確認できる。また、地域の行事等に積極的に参加し、地域社会で人と関わる中で、楽しく充実感を持って日々の生活を送ることができている。

(イ) 朝来中学校における生徒の平均像

・ 基本的な生活習慣

- 普段（月曜日から金曜日）、学校の部活動に4日以上参加している生徒の割合が、全国平均より大きく上回っている。また、県平均より上回っている。
- 学校の部活動で、普段（月曜日から金曜日）活動を行った日は、1～2時間活動をしている生徒の割合が、全国及び県平均より上回っている。
- 学校の部活動で、土曜日や日曜日など学校が休みの日に活動を行った日は、2時間以上4時間未満活動をしている生徒の割合が、全国平均より上回っている。
- 大半の生徒が朝食を食べているが、食べている割合は、全国及び県平均より下回っている。
- 朝食をとる習慣については、家庭での指導が大きな割合を示すため、機会あるたびに基本的な生活習慣に関する啓発を行っていく必要がある。

・ 学習習慣

- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上2時間未満勉強をしている（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）生徒の割合が、全国及び県平均より大きく上回っている。
- 学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっている（インターネットを通じて教わっている場合も含む）生徒の割合が、全国及び県平均より大きく上回っている。
- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり約半数の生徒が10分以上1時間未満読書をしている（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。その生徒の割合が、全国平均より上回っている。
- 月に1～3回、昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館（それぞれ電子図書館を含む）に行く生徒の割合が、全国及び県平均より上回っている。

- 家に0~10冊の本がある（一般の雑誌、新聞、教科書は除く）生徒の割合が、全国及び県平均より上回っている。
- 「読書が好きだ」と感じている生徒の割合が、全国及び県平均より大きく上回っている。
- 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、ほぼ毎日使用した生徒の割合が、県平均より上回っている。
- 家で自分で計画を立てて勉強をしている（学校の授業の予習や復習を含む）割合が、全国平均より下回っている。
- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり 2 時間以上勉強をしている（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）生徒の割合が、全国及び県平均より大きく下回っている。
- 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、週3回以上使用した生徒の割合が、全国及び県平均より大きく下回っている。
- 1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた、と感じている生徒の割合が、全国平均より下回っている。
- ICT を活用した授業や活動について、引き続き研修していく必要がある。
- 教師が、計画的に学習できる、また、次時につながるような課題を提示するとともに、「How to Study」等の活用をし、家庭と連携しながら家庭学習ができる環境をつくっていく必要がある。
- 教師が、生徒の実態に応じた授業研究及び授業改善を引き続き行っていく必要がある。

・ 人・地域とのかかわり

- 今住んでいる地域の行事に参加している生徒の割合が、全国及び県平均より大きく上回っている。
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っている生徒の割合が、全国及び県平均より大きく上回っている。
- 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思っている生徒の割合が、全国及び県平均より大きく上回っている。
- 日本や自分が住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思っている生徒の割合が、全国及び県平均より大きく上回っている。
- 自分の学級で、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている、と感じている生徒の割合が、全国及び県平均より大きく上回っている。
- 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる生徒の割合が、県平均より大きく上回っている。
- 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる生徒の割合が、全国及び県平均より下回っている。
- 友達関係に満足している生徒の割合が、全国及び県平均より下回っている。
- 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」と感じている生徒の割合が、全国及び県平均より大きく下回っている。
- 引き続き学校生活の中で話し合いや学校行事、生徒会活動等を通して課題を解決していく機会を設定し、生徒が生徒の手で支え合いながら学校をつくっていく環境を再構築し、さらに充実させていく必要がある。

・ 生徒の意識について

- 「先生は、自分のよいところを認めてくれている」と感じている生徒の割合が、県平均より上回っている。
- 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」と感じている生徒の割合が、全国及び県平均より上回っている。
- 将来の夢や目標を持っている生徒の割合が、全国及び県平均より上回っている。
- 学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思っている生徒の割合が、県平均より上回っている。
- 1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた生徒の割合が、全国及び県平均より大きく上回っている。
- 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた生徒の割合が、全国及び県平均より大きく上回っている。
- 1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた生徒の割合が、全国及び県平均より大きく上回っている。
- 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている生徒の割合が、全国平均より上回っている。また、県平均より大きく上回っている。
- 授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている生徒の割合が、全国及び県平均より上回っている。
- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる生徒の割合が、県平均より大きく上回っている。
- 引き続き、授業をはじめ、学校生活の中で、互いに協力して取り組む、生徒理解に基づいた教育的支援をする、また、地域活動への積極的に参加するなど、さまざまな経験を積んでいけるような環境を、学校・家庭・地域が連携・連動し、つくっていく必要がある。